

令和 7 年度決算概要説明書

令和 8 年 8 月 3 1 日

令和7年度の一般会計及び特別会計並びに公営企業会計の決算の認定をいただくに当たり、決算の概要を申し上げます。

【 総 括 】

社会経済活動が徐々に活発化し、景気の緩やかな回復基調が続いているものの、不安定な国際情勢や物価高騰などが続く厳しい状況の中で編成した本市の令和7年度一般会計当初予算は、「輝く伊東の未来を創る～改革、そして躍進へ～」を経営方針に位置付け、施策の3本柱である「みんながつくる伊東市」、「みんなが楽しい伊東市」、「みんなが暮らす伊東市」に係る事業の一層の進展と、本市を取り巻く諸課題や社会経済情勢の変化に対応した持続可能なまちづくりを着実に進め、安全・安心な市民生活を実感でき、一人ひとりが輝き、夢と希望を形にできる未来の実現を目指した編成といたしました。

歳出においては、サマーレビューによる事業見直しの成果を反映させた中で、本市における行政経営の指針となる総合計画等策定事業を始め、移住定住促進事業などの人口増加施策、高齢者タクシークーポン券購入助成事業などの高齢者支援施策、観光施設整備事業や伊東温泉魅力創出事業などの観光施策、学校給食費無償化事業、小・中学校GIGAスクール構想（第2期）端末更新事業、生涯学習センター施設改修等事業などの子育て・教育施策、自動証明書交付機導入事業などのDX推進施策などに重点的に配分することといたしました。

その結果、一般会計の予算規模を、前年度を7.9%上回る318億5,000万円とし、その後、定額減税補足給付金給付事業、物価高対応子育て応援手当給付事業、物価高騰対策生活支援事業、プレミアム付商品券事業などの物価高騰対策事業のほか、伊東温泉宿泊促進事業、台風15号による災害復旧費、地方交付税の増額や介護保険事業等社会保障関係の特別会計に対する繰出金の増額など、9回にわたる補正を行い、最終予算規模を351億2,052万4,000円といたしました。

執行に当たりましては、常に国県の動向や経済情勢を注視しつつ、効果的・効率的な執行に意を注ぎ、対応してまいりました。また、市長就任以降は、物価高騰に対しても、スピード感をもって対策を講じるなど、努力してまいりました。

以上、令和7年度の予算編成から決算までの背景を申し上げます。

引き続き、決算の内容につきまして説明いたします。

一般会計における歳入決算額は、３３５億８，２１２万１，０００円で、対前年度比１．６％の増となり、歳出決算額は３２５億５７１万１，０００円で、執行率は９２．６％、対前年度比１．１％の増となりました。

歳入歳出差引額は１０億７，６４１万円となり、生活環境向上対策事業やプレミアム付商品券事業などの繰越明許により、翌年度へ繰り越すべき財源４億１，１５４万３，０００円を差し引いた実質収支額は、前年度を１５．４％下回る６億６，４８６万７，０００円となりました。

歳入決算につきましては、自主財源では、学校給食費無償化事業により、分担金及び負担金が対前年度比で５５．２％減、財産収入が対前年比で５１．６％減、繰越金が対前年比で４２．１％下回ったものの、入湯税の超過課税等により市税が対前年比で４．２％増、諸収入が対前年比で４４．４％上回ったことなどから、自主財源全体では、対前年度比１．０％の増加となっております。

依存財源では、地方交付税が対前年度比で２．４％増、普通建設事業の増加に伴い市債が対前年度比３２．８％上回り、依存財源全体では、対前年度比２．１％増加し、歳入全体では、対前年度比で１．６％増加しております。

歳出決算につきましては、経常経費において、扶助費が対前年度比８．０％、公債費が１０．２％減少しているものの、人事院勧告に伴う給与改定等により人件費が対前年度比６．０％、維持補修費が１４．９％の増加となっております。

投資的経費につきましては、普通建設事業において、城ヶ崎海岸遊歩道整備事業や中学校校舎トイレ改修事業などが完了したものの、小室山公園観光トイレ整備事業、小・中学校空調設備設置事業、市民運動場照明設備ＬＥＤ化事業、台風１５号による災害復旧事業などを実施したことから、対前年度比で３２．９％増加しております。

以上が、一般会計歳入歳出決算の概要であります。

本市の財政は、これまで継続的に実施してきた様々な改革への取組により、適正とされる規模の黒字を確保するとともに、財政調整基金の取り崩しを必要最小限としたうえで、競輪事業収益金活用基金へ積み立てるなど、将来を見据えた財源の確保を図ることができていることなどから、健全化判断比率や経常

収支比率、実質収支比率などの財政指標も含め、その健全性は維持できているものと判断しております。

一般会計及び特別会計並びに公営企業会計の決算の概要につきましては、引き続き、担当部長から説明いたします。

最後になりましたが、本決算につきまして、認定いただくようお願い申し上げますとともに、本決算の意義を真摯に受け止め、市民の皆様や議員各位からの貴重な御意見、御指導をいただきながら、最善の努力をしてまいりたいと存じます。